

受験番号

国

語

(100点 60分)

(2025年度A-3)

注意事項

- 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子の表紙の受験番号欄に受験番号を書いてください。
複数の受験番号がある場合、受験票に記載されているメイン受験番号を記入してください。
- この問題冊子は表紙を除き、15ページです。
- 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、正しく記入してください。
 - 氏名欄 漢字氏名を記入してください。
 - 科目名欄 「国語」と記入してください。
 - 受験番号欄 受験票に記載されているメイン受験番号を記入し、その下のマーク欄に、正しくマークしてください。
- 受験番号が正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
- 解答は、解答用紙の解答マーク欄にマークしてください。
例えば

20

 と表示のある問いに対して㉓と解答する場合は、次の(例)のように20の解答マーク欄の㉓にマークしてください。
(例)

解答マーク欄											
20	㉑	㉒	●	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛
- 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 不正行為について
 - 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

国

語

(
解答
番号

1

5

32

)

第1問 次の文章A・Bを読んで、後の問い(問1～問10)に答えなさい。

A 「まなぶ」ことは「まねぶ」ことだ。じつさい、このふたつの言葉は語源が同じだ。学ぶことは多くの場合、まねることから始まる。意味もわからずに、ただひたすら師匠の所作をまねる。どの動きが重要で、どの動きが関係ないかもわからずに、ただただ同じ動きをする。それはときに「猿まね」と言われてバカにされる。茶道の先生が茶碗を回すと、生徒は同じように茶碗を回すが、先生がふと手を頭にやると、同じように手を頭にやる。それは思わず吹き出してしまうほど、滑稽でさえある。しかし、学ぶことは多くの場合、このような滑稽ですらある猿まねから始まらざるをえないのである。

たしかに猿まねをしないで、所作を習得することが可能な場合もある。ひとつの所作が誰にでも可能なくつかの要素に分解できるなら、それらの要素を順に実行することで、その所作を行うことができる。「花」という漢字を書くことは、どのカク^aをどの順に書くかを知れば、この字を書くことができるようになる。先生がこの字を書くのを見て、それを猿まねする必要はない。

しかし、私たちが学ぶ多くの所作は、このような要素への分解を許さない。逆上がり、包丁での皮むき、テニスでのボールの打ち方など、多くの所作は、要素的な動きの組み合わせになっておらず、見よう見まねで学んでいくしかない。もちろん、そのような所作もいくつかの部分的な動きに分けることは可能であるが、これらの部分的な動きはその所作を行うたびに微妙に異なり、まったく同じというわけではない。自転車に乗ることは、サドルにまたがる、ペダルを^bフむ、左右のバランスをとるなど、いくつかの部分に分けられるが、それらはいつ自転車に乗ってもまったく同じというわけではない。乗るたびに微妙に異なる。同じ要素を組み合わせさえすれば、自転車に乗ることができるようになるというわけではないのである。

このように要素に分解できない所作は、**A**を猿まねして習得するしかない。それはたいへん困難な作業であるが、それをやらざるをえない。学習の第一歩として、とにかく模倣^Xは非常に重要である。動物にも模倣の能力があるが、人間はとくにこの能力に長^たけている。人はやたらと物まねをしようとする。遊ぶときでさえ、物まねをすることがある。

Bに関連して、一九九〇年代の初めに、興味深いニューロンが発見された。「ミラーニューロン」だ。それはマカクザルの脳のF5野という部位から、J・リゾラッティらの研究グループが発見したものである(その後、人間の脳にも、サル^YのF5野に相当する部位に、このニューロンがあることが確認されている)。ミラーニューロンは、たとえば、サルが食べ物をつかむときに活性化されるだけでなく、実験者がその同じ行動をするのをサルが見たときにも活性化される。これは、実験者が食べ物をつかむのを見たとき、サルは潜在的に(つまり頭のなかで)その同じ行動をすることを意味する。

もちろん、このミラーニューロンは動作の模倣を可能にして、その動作を行う能力を獲得させるものではない。サルはみずから食べ物をつかむことができるからこそ、実験者が食べ物をつかむのを見ると、ミラーニューロンが活性化して、潜在的に食べ物をつかむという動作ができるのである。

したがって、これまで自分でできなかった動作がミラーニューロンによってすぐ模倣できるようになるというわけではない。もしそうであれば、どんな

動作もミラーニューロンによって立ちどころに模倣できることになろう。しかし、そう簡単にはいかない。やはり、模倣できるようになるには、³ 何度も試行錯誤を重ね、反復練習をせざるをえない。

(信原幸弘『覚える』と「わかる」 知の仕組みとその可能性』による)

B われわれおとなから見れば、¹ 真似るといふ行動はさほどむずかしいものには映らないかもしれない。たしかに、目の前にいる他人が手元にあるコップをつかんだので、自分もつかんでみるという動作などは、かなり易しそうだ。しかし、他人が舌をべろりと出して、「あっかんべー」としたので、自分も真似をするという場面を想像してみよう。おとなが表情を容易につくれるのは、⁴ 自分の姿というものを頭のなかにイメージできるからにはかならないことに、すぐ思い当たるはずである。ところが0歳児というのは、鏡を見せたところで、そこに映った自分の姿を自分とは把握できない存在である。目で誰かの姿を認めて、舌が出ているのを知ったとしても、⁵ 一体自分がどのようにすれば、舌が出た状態に変化するのか、つかむ手だてを見つけるのが大変に違いない。まして音というのは、一瞬耳に届いたかと思うと、⁵ 次の瞬間には影も形も残っていない。耳から届いた、記憶を心にとどめて、自分の発声機構を用いて再現をクワダてるといふのは、とても困難な課題なのである。

そもそも、のどと口の形態をどのように変化させて、どういふ具合に息をはき出せば、どんな音が出てくるのかが、赤ちゃんにはつかめていない。他者に呼びかけようとしても、発声のタイミングを把握することはできても、音の質までコントロールすることは、なかなかたいへんなのだ。そこで赤ちゃんは、ⁱⁱ とりあえずは場当りの、いろいろな種類の音を規則性なしに出すこととなる。一度あるタイプの音が出たからといって、**C** をおいて、さあもう一度同じ音を出してごらんと試させようとしても、もうむずかしい。ただ間隔をほんのわずかしはさまない限りならば、できないこともない。ある音をだして、それを産出した発声のパターンがまだ消え去らないうちであるなら、再生はさほどむずかしくないだろう。

そのとき、先の発声に反応して、おかあさんがおうむがえしの返答をよこしたとする。しかも赤ちゃんは、母親の行動が「模倣である」ことを理解するにまで成長している。自分もおかあさんのように、ⁱⁱⁱ 真似てみたいと感じて、とりあえず再び声を出すにいたる。真似をしようと改めて心のなかで決断したところで、とりたてて音の質が似ることはないのだけれども、この状況下では自分がひきつづいて同じ音を二度つづけて発声し、両者の間におかあさんの先行音への返答が時間的に^d ソウニウウされた形となっているので、**D** としておかあさんの声に対して子どものそのあとの声は、似せて発した形になつてしまう。

しかも赤ちゃん自身は、それで「真似ができた」と思ってしまうのかもしれない。そしておうむがえしのおかあさんの声に対して、ああいうふうに分の発声系をコントロールすればいいのだという学習が、^{iv} 萌芽する。おうむがえしに反応するという行動パターンもまた、⁶ ヒトの成人に生物学的に組み込まれた特異的な養育行動の一形態なのだ⁶ と推測される。おうむがえしに応ずることを通じて、赤ちゃんは模倣とは何か、「同一」対「相違」とは何なのかと

いう認識の獲得をウナガされることとなる。赤ちゃんは被養育者として、常に養育者と同じであることよって、自己の安定をはかろうとする傾向を持つ。同一と相違の弁別が困難である時期には、安定化を目ざすには、常に養育者の側からの働きかけを待たねばならない受け身の存在でしかありえなかった。けれども真似を試みるようになったことで、次第に自分のほうから養育者に歩み寄りをはかれる術を取得していくのだと言えるのかもしれない。

(正高信男『0歳児がことばを獲得するとき 行動学からのアプローチ』による)

問1 傍線部 a) e) のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号〕

1

5

a カク

1

- ① 裏でカクサクする。
- ② カクチョウが高い。
- ③ 話のカクシンに触れる。
- ④ 顔のリンカクを描く。
- ⑤ ゴカクの勝負。

b フむ

2

- ① アイトウの意を表する。
- ② 政権をダトウする。
- ③ 前例をトウシユウする。
- ④ 舞台にトウジョウする。
- ⑤ タントウ直入に切り出す。

c クワダてる

3

- ① キジョウの空論。
- ② 仕事がキドウに乗る。
- ③ 力をハツキする。
- ④ 人生のキロに立つ。
- ⑤ 政権奪還をキトする。

d ソウニユウ

4

- ① 庭をほうきでハク。
- ② 花瓶に花をサす。
- ③ 人形をアヤツる。
- ④ 他人をヨソオウ。
- ⑤ 胸がサワグ。

e ウナガされる

5

- ① ドソクは厳禁です。
- ② 実態をホソクする。
- ③ ジンソクに行動する。
- ④ 事態のシユウソクを図る。
- ⑤ 借金の返済をサイソクする。

問2 空欄 A、D を補うのに最も適当な語を、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません。)

〔解答番号 A 〃 6、B 〃 7、C 〃 8、D 〃 9〕

- ① 時間 ② 全体 ③ 動作 ④ 模倣 ⑤ 結果

問3 傍線部1「滑稽ですらある猿まね」とありますが、この「猿まね」はなぜ「滑稽」のですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 10〕

- ① 師匠の所作を要素に分解して複数の動きの間にある関係をつかもうとしているが、うまくできていないから。
② 何から何まで師匠の所作を模倣しようとして、大して重要ではないような所作にまで意味を見出しているから。
③ はた目からすると吹き出してしまうような師匠の所作を、おかしさをこらえながらまじめな顔で模倣しているから。
④ 師匠の所作の意味や重要度など考えず、どうでもいいとしか思えないような所作までそのまま模倣しているから。
⑤ 要素に分解できる所作とできない所作の違いも考えずに、何でも師匠と同じ所作をすればよいと誤解しているから。

問4 傍線部2「要素に分解できない所作」について筆者はどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 11〕

- ① 猿まねによってしか習得できないが、人間は模倣の能力に長けているので、所作を部分的な動きに分解すれば容易に習得できる。
② 所作を構成する部分的な動きに分けられても、部分は実行するたびに微妙に変化するため、所作を習得するのは難しい。
③ 要素ではなく部分に分ける方が習得しやすい所作であり、微妙に異なるやり方で繰り返し実行することによって身につけられる。
④ 所作を構成する部分的な動作を見よう見まねで学んでいくしかないが、部分を習得したとしても、所作全体が身につくとは限らない。
⑤ 所作は学習の第一歩となる重要なものだから、どれほど困難であっても習得しなければならず、遊ぶときでさえ努力を重ねる必要がある。

問5 傍線部X「模倣」、Y「潜在」の対義語として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 X Ⅱ

12

、Y Ⅱ

13

〕

- | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|
| X 「模倣」 | ① 実践 | ② 自作 | ③ 創造 | ④ 独断 | ⑤ 発明 |
| Y 「潜在」 | ① 顕在 | ② 混在 | ③ 自在 | ④ 実在 | ⑤ 遍在 |

問6 傍線部3「試行錯誤」と言えるものは、文章Bの傍線部i～vのどれですか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号

14

〕

- ① i 他人が手元にあるコップをつかんだので、自分もつかんでみる
- ② ii 場当りのに、いろいろな種類の音を規則性なしに出す
- ③ iii 真似てみたいと感じて、とりあえず再び声を出す
- ④ iv おうむがえしに反応する
- ⑤ v 自分のほうから養育者に歩み寄りをはかれる

問7 傍線部4「自分の姿というものを頭のなかにイメージできる」とありますが、その理由を説明した次の文の空欄()を補うのに最も適当なものを、後群の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 15〕

自分という存在についてその姿をイメージできるのは()が確立されているからである。

- ① 模倣
- ② 責任
- ③ 視座
- ④ 理性
- ⑤ 自我

問 8 傍線部5「瞬間」と熟語構成が同じものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

16

- ① 譲渡
- ② 慶弔
- ③ 翻意
- ④ 支柱
- ⑤ 未明

問 9 傍線部6「『同一』対『相違』」とは何なのかという認識の獲得」とありますが、ここではどのようなことについて言っているのですか。その説明と

して最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

17

- ① 赤ちゃんが、二度続けて発声した母親の声が同じであるか異なっているかについて認識できるようになること
- ② 赤ちゃんが、声を同じにしたり異なるものにしたりのための発声系のコントロールができるようになること
- ③ 赤ちゃんが、自分の発声音と母親の発声音が同じであるのか異なっているのかを認識できるようになること
- ④ 赤ちゃんが、発声音の産出パターンを記憶するようになり、同じ声と異なった声を自在に出せるようになること
- ⑤ 赤ちゃんが、自分と母親は一体化しておらず、養育する者とされる者という相違があると認識し始めること

問10 人間の「模倣」という行動を考察した文章A・Bの内容の違いについての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号〕

18

① 文章Aでは、猿まねという「模倣」の仕方の滑稽さが強調されているが、文章Bでは、0歳児はそうした「模倣」の仕方によってしか発声能力を獲得することができないという点が発達心理学的に考察されている。

② 文章Aでは、動物の「模倣」という行動がミラーニューロンの働きによることが明らかにされているが、文章Bでは、そのニューロンとヒトの成人に生物学的に組み込まれた特異な養育行動のつながりが推定されている。

③ 文章Aでは、要素に分解できない所作の「模倣」の困難さが重点的に考察されているが、文章Bでは、0歳児がその困難を克服しつつ発声能力を獲得していく過程が、養育者と被養育者相互の「模倣」という観点から考察されている。

④ 文章Aでは、所作を要素に分解できるか否かという観点から「模倣」が考察されているが、文章Bでは、0歳児による発声能力の習得が、要素に分解された所作の「模倣」であることが明らかにされている。

⑤ 文章Aでは、人間の学習が要素に分解できない所作の「模倣」から始まることが明らかにされているが、文章Bでは、そうした学習の典型例である0歳児の発声能力の習得メカニズムについて詳細に分析されている。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問10）に答えなさい。

〔注〕「群像」にはじめて小説を発表してから、さまざまな反応を受けた。褒める人もいれば批判する人もいた。批判の中には納得しづらいものもあれば鋭い指摘をしてくれると感じたものもあった。新人ならほとんど誰でも経験することだろう。

（イ）、ほくの場合は一つだけ、おそらく他の新人が訊かれなくて済むような質問に直面しなければならなかった。なぜ「母国語」である英語じゃなく、わざわざ「外国語」である日本語で小説を書いたのか、という質問だった。

1 実に返事に困る質問なのだ。しかし、返事に困るからといって、（ロ）二昔前のニューヨークで日本人ピアニストがコンサートを開いたときに「なぜコトじゃなくてわざわざピアノを弾くのか」と聞かれたような意地の悪い質問だとは決して思っていない。（1）

「なぜ日本語で書くのか」という問いに対して、日本語は美しい、フランス語なんかは問題にならない、日本語で書きたくなるのは当然じゃないか、と即座に答えたくなくなった。人種も国籍も関係ない、だってポーランド人として生まれたコンラッドもかれにとっては「外国語」であった英語で書いたじゃないか、とも言いたくなくなった。

（ハ）、「なぜ日本語で書くのか」という質問の中には、たとえば次のような疑問も含まれているのではないだろうか。コンラッドのように、マイナーな言語であったポーランド語を母国語とする者なら、大英帝国時代の英語で書きたくなるのも分るが、逆に、コンラッドの時代より一層世界共通語になってきた英語を母国語とする者が、わざわざ日本以外のどこにも通用しない日本語で書きたいという動機はとても理解しにくい。日本語で書く必然性はいったいどこにあるのか。

そう問われると、ほくはますます返事に戸惑う。（ニ）、ほくが日本語で書く「必然性」には個人的で、経験的で、主観的な要素が大きいから。はじめて日本に住んだ十六歳からこの二十年間、普通のアメリカ人がカリフォルニアやミネソタにおいて英語で経験する人生の出来事を——物語の最小単位を——ほくは桜木町、西早稲田、本郷、高円寺、新宿、東上野という場所において日本語で経験した。ほくはたとえば在日韓国人のように、民族的な被圧迫という超個人的な「必然性」を背負っているわけではないが、それでもほくにも「在日」の歴史がある。そして十六歳の肥沃な内面に根を張り、二十一年間に亘って成長と変異を経ながらびこった日本語の歴史もある。（2）

実に多くの知識が日本語のままでは多くの頭に入り、数々の心象が日本語のままでは多くの頭の中で生まれた。日本語で表現できて英語に訳せない動詞と名詞、暗示と連想と詠歎。日本語という膜に濾過されて「世界」が入ってくることもあった。最初はカタカナで聞いた「レビ・ストロース」という人名も、「レビ・ストロース」なのか「レビスト・ロース」なのか、それとも「レビストロース」なのか、未分化のままだった。アメリカへもどり、横文字で見ると、それが「レビ・ストロース」であり、（ホ）その「レビ」が自分と同じ姓であることをはじめて知った。

区役所へ行って指紋押捺さうなつを受けたときも、脳裏に浮んだのは「miserable」という英語ではなくて、在日二世と同じように、「みじめだ」というヤマトコトバだった。

西洋文化からドロップ・アウトして、絶えず日本の内と外の見えない境界線にさすらって生きる人間のよろこびとみじめさを物語につづるのは、日本語で小説を書く十分な理由にならないだろうか。(3)

小説に限らず日本語で書くもう一つの理由がある。ごく単純にいえば、書けないと思われるから書く、ということだ。ぼくの中にもそのようなはずみがある。日本語で書くという行為が、国籍||人種||言語||文化という常識、左翼、右翼、モダン、ポスト・モダンを問わず、依然として日本の知識人を宰領している常識に対する小さな反抗になればいい、という気持ちも抱いている。

その常識にはじめてぶつかつたのは、日本文学を日本語で読みだした十八か十九の頃だった。新宿風月堂に出入りしていた昭和四十四年か四十五年のある日、となりの席にいた日本人がぼくが持っていた『金閣寺』⁵を指して、「これ、日本語で読んでいるの」と尋ねてきた。「はい」と答えたぼくの顔を、モーツアルトに夢中で、モーム、グレアム・グリーン、アイリス・マードックなどの名前ばかりを言い散らす日本人が訝いぶかしそうに眺めながら、「でも、それは、あなたのことばじゃないし、あなたの文学じゃないでしょう」と言ったのだ。(4)

ぼくは『金閣寺』を最後まで読んだ。日本語の所有権をあらわな形で問題にする日本人も少なくなった。何年間かの修練を重ねているうちに、日本語で読むのも書くのも当り前になった。

当り前にはなつたが、決して「自然」にはなっていない。最近、シカゴ大学のノーマ・フィールドさんから、「日本語で書くことはもう自然になつたでしょう」と言われたことがある。ぼくは、日本語が自分の気質に非常に合っているという意味では最初から自然だった、ただし、「自然」だけでは文体が生まれない、と答えた。文章を書くときには常にフリクション^{注2}がある。日本人として生まれた者でも、本当の作家なら、常に「母国語」が「外国語」であるかのような緊張の中で書いているに違いない。(5)

コンラッドも、英語の作品を生み出すとき、自分の書いている文章と言葉づかいについて百パーセントの確信を持ちかねて、一語一語を勝ち取るのは終りなき葛藤⁶だった、というような言葉を残している。ぼくの処女作の日本語を十回も二十回も書き直していた夜、ひよっとしたらコンラッドが葛藤そのものを面白がっていたのではないか、という空想にふけることもあった。

(リービ英雄『日本語の勝利/アイデンティティーズ』による)

(注1) 「群像」||講談社発行の月刊文芸雑誌。

(注2) フリクション||摩擦、軋轢。

問1 空欄（イ）～（ホ）を補う語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つずつ選びなさい。（同じ番号を二度以上選んではいけない。）〔解答番号 イⅡ 19、ロⅡ 20、ハⅡ 21、ニⅡ 22、ホⅡ 23〕

- ① しかし ② なぜなら ③ だから ④ たとえば ⑤ ただ ⑥ しかも

問2 傍線部1「実に返事に困る質問なのだ」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号

24

〕

- ① 筆者には、日本語で小説が書けても英語では書けないというコンプレックスがあるから。
② 筆者にとって、日本語で小説を書くことには非常に個人的な理由が含まれているから。
③ 筆者自身、日本語で小説を書くことの不自然さや困難さをほとんど実感しているから。
④ 筆者は、日本語で小説を書くのに人種や国籍など全く関係ないと割り切っているから。
⑤ 筆者は、日本語で小説を書くことは自然であり、文体も自然と生まれると考えているから。

問3 傍線部2「意地の悪い質問」とありますが、その「質問」がなぜ「意地の悪い」と言われるのですか。その理由として最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

25

〕

- ① 日本人がゴトではなくピアノを弾くことに違和感を感じているような質問だから。
② 日本人にはぜひともゴトを弾いてほしいという願いが感じられるような質問だから。
③ 日本人のピアノ演奏がひどく下手であることを暗にほめかすような質問だから。
④ 日本人が西洋人のようにピアノを弾けることに驚きを隠せないような質問だから。
⑤ 日本人のピアノ演奏が非常に優れていることを認めたがらないような質問だから。

問4 傍線部3「『みじめだ』というヤマトコトバだった」とありますが、ここからどのようなことがわかりますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 26〕

- ① 筆者は指紋押捺を外国人差別だと考えているということ
- ② 筆者も民族的な被圧迫の歴史を背負っているということ
- ③ 筆者は本心ではヤマトコトバを嫌っているということ
- ④ 筆者は在日二世であることに負い目を感じているということ
- ⑤ 筆者にとって日本語は母国語同然になっているということ

問5 傍線部4「その常識」とはどのような常識ですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 27〕

- ① 日本の知識人は左翼か右翼か、モダンかポスト・モダンのいずれかであるという常識
- ② 外国人が日本語で小説を書いても、『金閣寺』のような小説は書けないという常識
- ③ たとえ外国人であっても、日本語で小説を書くことは十分に可能であるという常識
- ④ 日本の文学は日本国籍を有する日本人にしかその神髄は理解できないという常識
- ⑤ 文学作品は翻訳ではなく、原語で読まなければ作者の真意はわからないという常識

問6 傍線部5『金閣寺』の作者を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 28〕

- ① 太宰治
- ② 大江健三郎
- ③ 三島由紀夫
- ④ 川端康成
- ⑤ 遠藤周作

問7 傍線部6「葛藤」とはここではどのようなことを言いますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 29〕

- ① コンラッドは英語で作品を書くとき、英語が母国語でないことにコンプレックスを抱いていたということ
- ② コンラッドは、英語を母国語とする人たちの反発や批判を予想しながら小説を発表したということ
- ③ コンラッドは英語で作品を書くとき、どの言葉でどう表現するかあらいまわしや迷いがあつたということ
- ④ コンラッドは英語で作品を生み出すことに、常に躊躇ちゅうちゆや戸惑いを感じずにはいられなかったということ
- ⑤ コンラッドは英語を母国語としないために、英語を一語一語慎重に吟味して使っていたということ

問8 筆者が日本語で小説を書く理由の一つとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 30〕

- ① 日本語で書くことがようやく自然となったので、外国人には日本文化がわからないという固定観念を壊したいと考えたから。
- ② 日本人とアメリカ人とのほざまで生きるような人間の苦悩や喜びなどを、あえて日本語を媒体として描きたかったから。
- ③ コンラッドが敢えて母国語でない英語で書いたように、自分も母国語でない日本語で小説が書けることを証明したかったから。
- ④ 日本語で小説が書けるほどに日本語に堪能になることで、自分が普通の日本人以上に日本人であることを示したかったから。
- ⑤ 英語が世界共通語になっている現在、いよいよマイナーな言語になりつつある日本語の国際的影響力を高めたいと思ったから。

問9 本文から次の文が抜け落ちています。どこに戻すのが最も適当ですか。後群の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 31〕

後で知ったことだが、「コンプレックス」という心理学用語には「固定観念」の意味もあるらしい。

- ① (1)
- ② (2)
- ③ (3)
- ④ (4)
- ⑤ (5)

問10 本文の標題として最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号

32

- ① 「在日」の歴史をたどる
- ② なぜ日本語で書くのか
- ③ 小説家になる方法
- ④ 日本語と英語のはざまで
- ⑤ 日本文学に親しむ